

日本人フットサル選手の試合中の高強度プレーに関する研究

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号： 4119056
氏名：渡邊 知晃

【目的】

本研究では IMU を用いて試合中におけるフットサル選手の PlayerLoad™ (以下, PL) と選手の高強度プレー (High intensity events: 以下, HIE) を測定し, それぞれの関係および, 起因するプレーについて解明することを目的とした.

【方法】

対象者は, F リーグ 1 部チーム所属する選手 23 名 (年齢: 26.5 ± 3.7 歳、身長: 172.9 ± 5.3 cm、体重: 68.5 ± 6.1 kg) を上位群(以下, プロ), F リーグ 1 部サテライトチームと大学フットサル部に所属する選手 42 名(年齢: 18.7 ± 0.8 歳、身長: 172.5 ± 5.7 cm、体重: 65 ± 5.8 kg) を下位群(以下, アマ)とした. 測定は, 令和元年 5 月 3 日にミズノフットサルプラザ味の素スタジアムで, プロを対象とした 1 試合, アマを対象とした 2 試合の合計 3 試合で行なった. 対象者は測定に際し, ウェアラブルデバイスを着用した. 測定項目は, PL, HIE, トランジションの頻度, パスの本数, シュートの本数とした.

【結果】

プロとアマを比較した結果, 身体的負荷の指標の 1 つとして用いられている PL および, HIE は, 前後半で減少傾向であることが示唆された.

【結論】

PL および HIE は, 前後半で減少し同じ傾向が示唆された. 特にインプレー中に生じたトランジションの頻度, パス成功本数, 縦パスの成功本数, シュート総本数において, プロがアマの値を上回っていることから, PL および HIE の値に影響を及ぼしている可能性が示唆された.